

警察と接近する学校の動きについて、18年前に息子がいじめを苦しんで自殺し、いじめられた子の相談を受け続けてきた大河内祥晴さん(66)＝愛知県西尾市＝に聞いた。▶1面参照

「警察と連携強化」という動きを現場が安易にとらえてしまうことを危惧している。警察に相談する前に、学校がいじめに気づき解決に向けて何をするかが一番重要だからだ。

確かに傷害や恐喝といった犯罪行為は警察に相談する必要があると思う。息子の場合も、犯罪と言わざるをえない行為が報道されて捜査が入り、相手

愛知の大河内さん 18年前に息子自殺

の子は罪を償った。でもそれでよかったかと問われると迷いがある。彼らの行為をあそこまでエスカレートさせた原因は、気づけなかった私にもあるし、学校にもあると思うからだ。

当時の学校は、職員会議の議事録には「いじめ」という言葉が何度も出てくる。ところが、周囲の子が問題を訴えても教師は向き合わず、「いくら仲間であっても行き過ぎた行為だ」とはっきり注意をしなかった。その繰り返しのいじめに気づき、警察に相談するはずれてエスカレートしてしまった。

いじめは連続性のあるもの。いじめられる側は、連続して拡大する行為を受けてどんどんつらくなっていき、言い出す気力さえなくしてしまう。一方、いじめている子は、こんなことをやっていいのかと心のどこかで不安を抱いている。早い段階にそれはいけないと気づかせてやるのが一番重要で、それができるのは、被害者と加害者の両方に接している教師しかいない。

学校はその責任から逃げることではできない。犯罪や最悪の結果に至って初めていじめに気づき、警察に相談する事態にならないことをお願いしたい。